

メルマガ 「いいテク・ニュース」 季語に遊ぶ 2026 年 7 月 28 日 (Vol.196)

「竹久夢二、作品と俳句」-其の貳

## 「竹久夢二、作品と俳句」-其の貳



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Takehisa\\_Yumeji-1920-12\\_Scenes\\_at\\_Nagasaki\\_Green\\_Liquor.png](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Takehisa_Yumeji-1920-12_Scenes_at_Nagasaki_Green_Liquor.png)

長崎十二景 青い酒 1920 年 水彩・紙 36.5 × 27cm 福田美術館

明治末期から大正時代に活躍し「大正浪漫」を代表する画家・詩人・グラフィックデザイナーであった竹久夢二。

憂いを帯びた「夢二式美人」で一世を風靡し、水彩画・油彩画・木版画、さらにデザインの分野や挿絵まで幅広く作品を残し、詩や童謡など文芸面においてもその才能を発揮しました。大流行した「宵待草」は夢二の作詞によるものです。

恋多く、漂白の人生を歩み、現在においてもその軌跡は注目されています。

<1884 年-1934 年(明治 17 年-昭和 9 年)>

昭和 9 年 9 月 1 日没。49 歳 11 か月の生涯を閉じる。

「季語に遊ぶ」今回は「竹久夢二・作品と俳句」其の弐として 1920 年に描かれた「長崎十二景」から 3 作品を紹介し、その作品に合う俳句を選びました。

西洋と東洋が溶け合い異国情緒あふれる長崎の情景は、夢二にとって魅力的なものでした。夢二の心に存在する異国への憧憬と現実が混じり合い、独特の長崎風景が描かれています。

お楽しみください。



# 「眼鏡橋」



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Takehisa\\_Yumeji-1920-12\\_Scenes\\_at\\_Nagasaki\\_Meganebashi.png](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Takehisa_Yumeji-1920-12_Scenes_at_Nagasaki_Meganebashi.png)

1920 年 紙に水彩 39.5 × 29.5cm 川村コレクション

「長崎十二景 眼鏡橋」は大正 7 年（1918 年）の長崎旅行の思い出をもとに描かれた水彩画の連作の一つです。

女性は薄紅の長襦袢に紗の薄い単衣（ひとえ）を重ねた、大正時代に流行ったハイカラな装いです。

細くしなやかな指の表情を見せながら、傘をさした女性を画面の半分に置き、眼鏡橋、石畳、土蔵、中国人の老婆などを背景としていて、大胆な構図と緻密なペンのタッチが、この作品の物語性を想像させます。

この後紹介する「青い酒」とともに、ペン画に色を施した作品です。

長崎の眼鏡橋は、日本三名橋のひとつで、長崎市の中島川に架かる石造二連アーチ橋です。

橋の長さは 22 メートル。

川面までの高さは 5.46 メートル、2 つの半円を描くアーチ形式の石橋で、水面に映しだされた部分と陸上の部分とを少し離れた所から見ると眼鏡のように見えることからその名があります。



ここでは「眼鏡橋」プラス季語で詠まれた句を選びました。

## 眼鏡橋門松舟の著きにけり

正岡子規

季語「門松」で新年

## 師の詠みし眼鏡橋いまおぼろ橋

朝倉和江

季語「おぼろ」で三春

## 河童忌の汐さかのぼり眼鏡橋

木場田秀俊

季語「河童忌」で晩夏

芥川龍之介の命日である7月24日のこと。

芥川龍之介が1927年に雑誌「改造」に発表した短編小説のタイトル「河童」にちなんだ季語。

## べつかふの月の出に酔ふ眼鏡橋

文挾夫佐恵

季語「月の出」で三秋

べつかふ＝鼈甲（べっこう）で、黄金色・茶褐色（琥珀色）の美しい色合いのこと。

## 風花や錦絵めきて眼鏡橋

下村ひろし

季語「風花」で晩冬

風花＝青く晴れわたった日に、寒風にまじってひらひらと舞い降りる雪のこと。

# 「灯籠流し」



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:TakehisaYumeji-1920-12\\_Scenes\\_at\\_Nagasaki\\_T%C5%8Dr%C5%8DNagashi.png](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:TakehisaYumeji-1920-12_Scenes_at_Nagasaki_T%C5%8Dr%C5%8DNagashi.png)

1920 年 水彩・紙 39.5 × 29.5cm 川村コレクション



灯籠流しは盆の終わる 15 日、または 16 日に川や湖や海へお盆に迎えたご先祖様の魂を弔い、再びあの世へ送り出す行事で、精霊（しょうりょう）送りと送り火の行事が結びついて行われるようになりました。

灯籠が夜の水面を流れて行く妖しい美しさが好まれ、最近は全国各地で観光化しつつあります。

絵はその様子を見ている浴衣の女性と中国風の装いをした幼い子供。

二人の境遇に思いを馳せるのは、ここが長崎という背景からでしょうか。

大きな黒い玉は長崎港に面した大波止にある「鉄砲玉」をイメージしたもので、その玉に気をとられている幼児の姿がいじらしい。

懐古趣味と耽美的な異国情緒の漂う作品です。

ここでは、作品名になっている、初秋の季語「灯籠流（とうろうながし）」「流燈（りゅうとう）」を詠んだ句を選びました。

季語「灯籠流」「流灯」 初秋

灯籠のわかれては寄る消えつつも

臼田亜浪

夕焼けは一瞬にさめ流灯会

山口青邨

流燈のあと月光を川流す

大野林火

流灯の引きては返し引きゆけり

大橋敦子

流灯のしばらく水に怯（おび）えおり

田宮房子



# 「青い酒」



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:TakehisaYumeji-1920-12\\_Scenes\\_at\\_Nagasaki\\_Green\\_Liquor.png](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:TakehisaYumeji-1920-12_Scenes_at_Nagasaki_Green_Liquor.png)

1920 年 水彩・紙 36.5 × 27cm 福田美術館

女性は大柄なたんぽぽ模様の着物をしどけなくまとい、しかし、品格を失ってはいません。

テーブルには、茶色の細長く背の高いキュラソーの瓶があり、女性が青い酒が入ったグラスを手にし、眼のまわりがほんのり紅く染まっています。

熟年の女性の色香が漂い、半分解けた黒い帯が画面のアクセントになっています。

和装姿の女性が洋酒を飲んでいるという、和洋折衷の大正浪漫を象徴するような作品です。

青い酒は、多分、ブルーキュラソーをベースに作られたカクテルでしょう。  
ブルーキュラソーはオレンジの果皮で香りづけされたリキュールに鮮やかな青色の着色を施したお酒です。

柑橘系の爽やかな風味と甘みがあり、カクテルを海や空のような美しいブルーに染めるのに欠かせないアイテムとして親しまれています。

青いカクテルの代表的なものをあげました。

スカイダイビング：ホワイトラムをベースに、ブルーキュラソーとレモンジュースを合わせた、澄んだ青空のようなショートカクテル。

チャイナ・ブルー：ライチリキュールにブルーキュラソーとグレープフルーツジュースを合わせた、フルーティーで飲みやすいカクテル。

ブルー・ハワイ：ラムをベースに、ブルーキュラソー、パイナップルジュース、レモンジュースを合わせ、クラッシュアイスを含めた南国気分を味わえるカクテル。

ブルー・ラグーン：ウォッカにブルーキュラソーとレモンジュースを合わせた、爽やかな酸味が楽しめるカクテル。

ブルー・レディ：ジンベースに、ブルーキュラソーとレモンジュースを合わせた、美しい色合いのショートカクテル。



ここではいろいろな「洋酒」プラス季語で詠まれた句を選びました。

ロゼワイン栄螺（さざえ）の腸のほろにがさ

佐々木幸子

季語「栄螺」で三春

月を待つシャンパンの栓ポンと抜き

星野 椿

季語「月を待つ」で仲秋

音楽とブランデーあり胡桃（くるみ）割る

加藤三七子

季語「胡桃」で晩秋

風邪ごこちなればのホットウキスキイ

久保田万太郎

季語「風邪」で三冬



私も詠んでみました。

## 夏深し青きカクテル嗜（たし）なまん

白井芳雄

季語「夏深し」で晩夏

主な参考文献、出典：著者 小川晶子

『もっと知りたい竹久夢二 生涯と作品』（東京美術）（2009 年）  
ISBN978-4-8087-0839-9 C0071

編者 竹久夢二美術館 石川桂子 谷口朋子

『竹久夢二のおしゃれ読本』（河出書房新社）（2005 年）  
ISBN4-309-72744-1

著者 王文萱 翻訳 藤原由希

『竹久夢二の世界 美人画からモダンデザインまで』  
（パイインターナショナル）（2024 年）  
ISBN978-4-7562-5821-2

編集人 高橋洋二

『別冊太陽 No.20 AUTUMN' 77』（平凡社）（1977 年）  
ISBN4-582-92020-9

飯田龍太・稲畑汀子・金子兜太・沢木欣一監修

『カラー版 新日本大歳時記 愛蔵版』（講談社）（2008 年）  
ISBN978-4-06-128972-7

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川耀・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 春』（KADOKAWA）（2022 年）  
ISBN978-4-04-400504-7 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川耀・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 夏』（KADOKAWA）（2022 年）  
ISBN978-4-04-400499-6 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川耀・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 秋』（KADOKAWA）（2022 年）  
ISBN978-4-04-400500-9 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川耀・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 冬』（KADOKAWA）（2022 年）  
ISBN978-4-04-400502-3 C0392

参考サイト：フリー百科事典ウィキペディア (Wikipedia)

最後までお読みいただきありがとうございました。

(株)技術情報センター メルマガ担当 白井芳雄

株式会社 技術情報センター 〒 530-0038 大阪市北区紅梅町 2-18 南森町共同ビル 3 F

TEL : 06-6358-0141 FAX : 06-6358-0134 E-mail : info@tic-co.com